

エゾマツ *Picea jezoensis* (Siebold et Zucc.) Carr.

マツ科 Pinaceae

1. 利用対象部位：樹皮

2. 組織形態：

樹皮は縦長の深い割れ目が多数入り、縦長の細長い鱗片としてはげ落ちる。

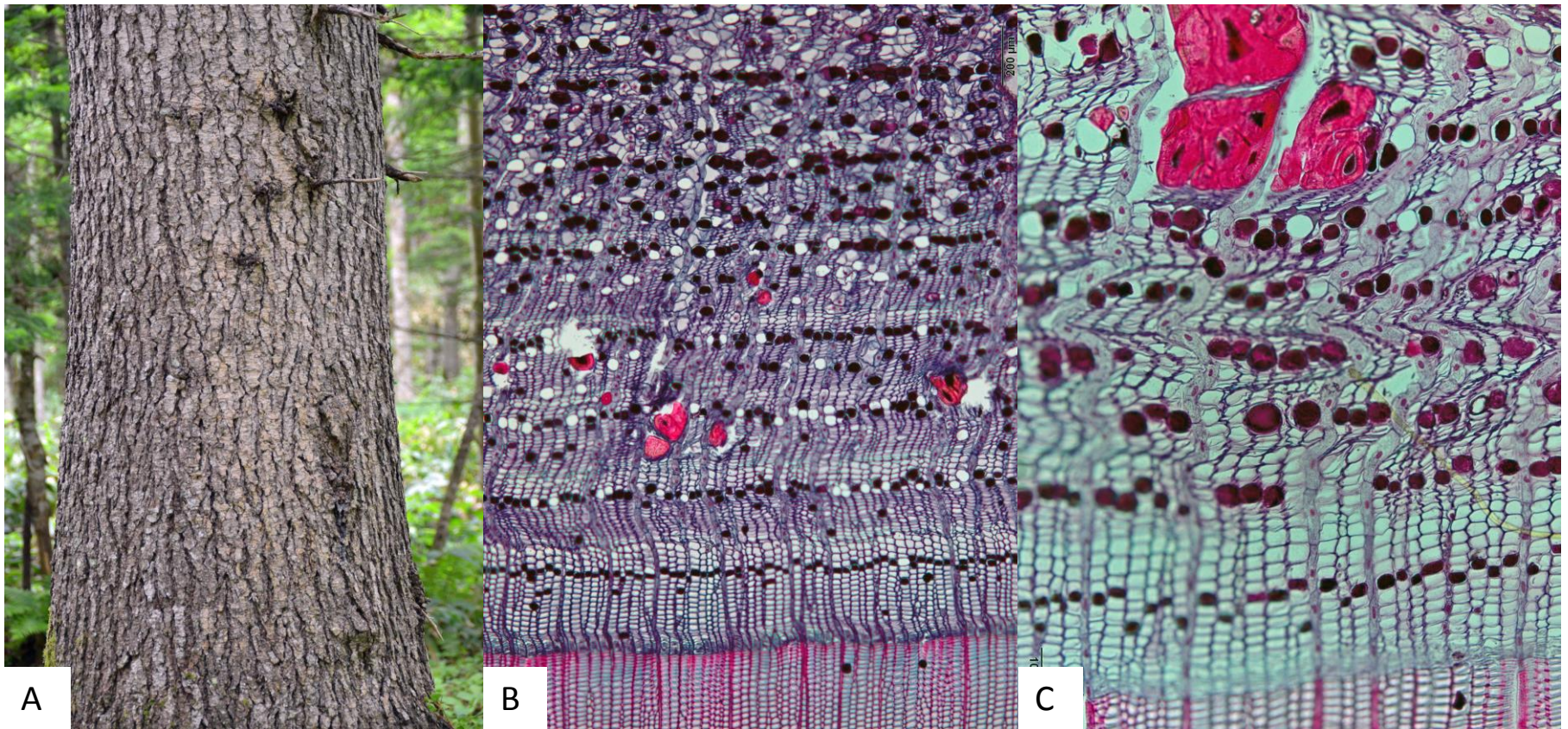
内樹皮の基本構造は篩細胞層と柔細胞層の繰り返しである。篩細胞層は10細胞層くらいの厚さがあり、これに1細胞層の柔細胞が加わる。柔細胞層はだいたい接線方向に配列するが時折その位置が前後する。

形成層の活動により組織が外に押し出されて行くと篩細胞層は押しつぶされるが、柔細胞は丸く膨らんで大きくなる。更に外側では偶発的に厚壁異形細胞の大小の塊が形成される。

以上のようにエゾマツの樹皮には繊維細胞が無いことから、編組製品の素材とはならないと考えられる。

3. 利用例：なし

4. 遺跡出土遺物：なし



A:エゾマツの樹皮(北海道津別町). B&C:内樹皮の横断面とその拡大. 画面下部に二次木部および形成層帯がある. 赤色に染色されているのは厚壁異形細胞、黒紫色で細胞内容物があるのが柔細胞、細胞壁が青色で細胞内容物が無いのが篩細胞. 肥大成長により組織が外側に押し出され、篩細胞が機能を失うと周囲の柔細胞が膨らんで篩細胞を押しつぶす. 樹皮の放射組織は単細胞幅.